

### Ⅲ. 3. その他の外部資金

#### ○奨学寄附金

##### <言語社会専攻>

対象教員	寄付団体名	研究課題	金額	研究期間
林 初梅 准教授	台北駐大阪経済文化弁事処（台湾教育部）	台湾研究講座（台湾言語文化課程発展プロジェクト）	70,000US ドル/年	H27.4.1～ H30.3.31
杉田 米行	公益財団法人 全国銀行学術研究 振興財団	ドッジラインの再検討：戦後 日本経済の礎	600,000 円	H29.2.16～ 1 年程度
デンマーク語専攻 （田邊 欧）	スカンジナビア・ ニッポン ササカ ワ財団	デンマーク・日本外交樹立150 周年記念事業のための助成金	400,000 円	H29.7～ H29.12
ウルドゥー語専攻	名誉教授	ウルドゥー語教育・研究助成 金	250,000	設定なし

#### ○共同研究

##### <言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

受入教員	相手先	研究課題	金額	研究期間
（研究代表） 古川 裕 教授	株式会社 ピクセラ	字幕の機械翻訳における翻訳 品質改善の研究	4,867,200 円	H28.10.1～ H30.3.31
（研究代表） 永原 順子 助教	株式会社 坂本技研	学際的視点を持たせる地域連 携教育研究	200,000 円	H29.11.1～ H30.10.31

#### ○受託研究

##### <言語社会専攻>

受入教員	相手先	研究課題	金額	研究期間
（研究代表） 真嶋 潤子 教授 計 6名	一般社団法人 アジア国際交流奨 学財団	日本語学習者の日本語・日本 文化理解に関する評価のため の基礎研究	2,000,000 円	H29.4.1 ～ H30.3.31

(研究代表) 米田 信子 教授	独立行政法人 日本学術振興会	言語学分野に関する学術研究 動向—少数言語ドキュメンテ ーション研究の現状と展開	1,690,000 円	H29.4.1 ~ H30.3.31
杉田 米行	READYFOR(株)	1947 年から 1961 年までの戦 後文献資料に関する研究	876,814	H28.10.11~ H30.9.30
(研究代表) 畑田 美緒 教授 計 1 2 名	公益財団法人 日本英語検定協会	大学英語教育における CEFR の活用—ESP と 4 技能育成の 統合	1,000,000 円	H29.11.1 ~ H30.3.31

## ○受託事業研究

### <言語文化専攻>

ドイツ (DAAD) との共同研究

対象教員	寄付団体名	研究課題	金額	研究期間
宮本 陽一 教授	独立行政法人 日本学術振興会	量化に関する実験語用論的研究	2,400,000 円 (H29 年度 分)	H28.4.1~ H30.3.31
田畑 智司 准教授	独立行政法人 日本学術振興会	文学テキストにおけるコンプ レキシティの計量言語学的研究	1,920,001 円 (H29 年度 分)	H29.4.1~ H31.3.31

### <言語社会専攻>

受入教員	相手先	事業名	金額	研究期間
(研究代表) 林田 理恵 教授	文部科学省 初等中等教育局	外国語教育強化地域拠点事業	1,647,420 円	H29.5.19~ H30.3.30
(受入窓口) 箕面事務室 教務係	独立行政法人 国際交流基金	海外日本語教育インターン派 遣プログラム	1,381,282 円	H29.8.1~ H30.7.31

## ○日本学術振興会特別研究員

### <言語文化専攻>

氏名	助成団体	助成名称	申請課題	助成金等
石野 未架 DC1	日本学術振興会	平成 27 年度日本学 術振興会特別研究員	英語教師が母語を効果的に 用いる授業内発話理論の構 築と実践による検証	200,000 円/月

迫野 詩乃 RPD	日本学術振興会	平成 28 年度日本学術振興会特別研究員	音韻論の知見に基づいた読みの獲得と障害の研究—分節的側面と韻律的側面に注目して—	362,000 円/月
植田 尚樹 PD	日本学術振興会	平成 29 年度日本学術振興会特別研究員	東部ユーラシア諸言語の動態的音韻研究—音声算出・知覚実験を軸に—	200,000 円/月
杉山 真央 DC2	日本学術振興会	平成 29 年度日本学術振興会特別研究員	ロシア年次教書におけるロシア大統領のスピーチスタイル	200,000 円/月
井原 駿 DC1	日本学術振興会	平成 29 年度日本学術振興会特別研究員	組み合わせ範疇文法 (CCG) を用いた日本語発話形式処理システムの構築	200,000 円/月

### <言語社会専攻>

氏 名	助成団体	助成名称	申請課題	助成金等
杓掛 沙弥香 DC1	日本学術振興会	平成27年度日本学術振興会特別研究員	タンザニアにおける言語政策と言語態度—学校教育は言語態度にどう影響するか—	200,000 円/月
古本 真 PD	日本学術振興会	平成28年度日本学術振興会特別研究員	スワヒリ語南部諸方言の記述と方言分類の批判的検証	200,000 円/月
小野田 風子 DC2	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	多言語状況下の文学研究—スワヒリ語作家ユーフレイズ・ケジラハビを中心に—	200,000 円/月
劉 玲芳 DC2	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	「日中身装文化の交流史—日清戦争から第二次世界大戦まで—」	200,000 円/月
牧野 友香 DC2	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	ベンバ語およびその周辺言語におけるテンス・アスペクト体系についての比較研究	200,000 円/月
安部 麻矢 PD	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	タンザニア・マア語の2変種の社会言語学的記述研究—言語接触の視点から—	362,000 円/月

#### ○内地研究員

該当なし

#### ○私学研修員

該当なし

○国際共同研究推進プログラム

<言語社会専攻>

アジア太平洋地域の平和と安定：包括的アプローチを目指して	
研究代表者	言語社会専攻・教授 杉田 米行
招へい研究者	フィンランド国際問題研究所/上級リサーチフェロー Bart Gaens  ベルグラード大学東洋学研究学部長/教授 LJILJANA MARKOVIC
研究期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 36 年 3 月 31 日
研究課題の概要	研究の全体構想は、アジア太平洋地域の平和と安定をいかにして築くかということ、歴史的知見を基礎にして探求するとともに、それを基に将来の展望を切り開くことである。そのために、本研究は、平成 26 年度～28 年度の国際共同研究促進プログラム「アジア太平洋地域の平和と安定：国際行動規範形成のための重層的分析」の成果を発展させる。前回の研究では国際行動規範形成の必要性を解明したので、今回は制度的・国内政治的・文化的・法的経済的諸要因を構造的に取り込み、包括的アプローチの構築を目指す。そのために、まず、個別要因の分析を行い、その成果を積み上げていきたい。